

重点戦略 1 次代を拓く人づくり戦略

1 未来を創る「とちぎ人^{じん}」育成プロジェクト

1 プロジェクトの概要

(1) 目標




- 確かな学力、豊かな心、健やかな体をもち、未来に向かって、たくましく生きる子どもたちをはぐくみます。

(2) 重点的取組





- ☆ 確かな学力の育成と教育環境の整備
- ☆ 豊かな心と健やかな体の育成
- ☆ 障害のある児童生徒一人ひとりに応じた教育の充実
- ☆ 高校教育の充実
- ☆ グローバル人材の育成

2 プロジェクトの進捗を表す成果指標等の状況

①全国学力・学習状況調査の平均正答率

	現状値 H27	H28	H29	H30	R1	目標値 R2
目安値	(全国平均正答率との差)	すべての教科で全国平均正答率との差を▲2.0%以内	すべての教科で全国平均正答率との差を▲1.5%以内	すべての教科で全国平均正答率との差を▲1.0%以内	すべての教科で全国平均正答率との差を▲0.5%以内	すべての教科で全国平均正答率を上回る
実績値	(小6) 国語A ▲1.1 国語B ▲2.3 算数A ▲1.3 算数B ▲2.0 (中3) 国語A ▲0.1 国語B ▲0.6 数学A ▲0.9 数学B ▲1.2 %	(小6) 国語A ▲2.3 国語B ▲1.9 算数A ▲2.6 算数B ▲2.0 (中3) 国語A 0.1 国語B 0.1 数学A ▲1.0 数学B ▲1.0 %	(小6) 国語A 0.1 国語B ▲0.4 算数A 0.1 算数B ▲1.3 (中3) 国語A ▲0.2 国語B 0.4 数学A ▲0.5 数学B ▲0.1 %	(小6) 国語A 0.0 国語B ▲0.1 算数A ▲0.5 算数B ▲0.9 (中3) 国語A ▲0.4 国語B ▲0.6 数学A ▲1.5 数学B ▲0.8 %	(小6) 国語 0.2 算数 ▲1.4 (中3) 国語 0.2 数学 ▲0.7 %	実施せず
						—

②新体力テスト体力合計点

	現状値 H27	H28	H29	H30	R1	目標値 R2
目安値	(小5) 男53.17 女55.38	(小5) 男53.22 女55.44	(小5) 男53.28 女55.49	(小5) 男53.33 女55.55	(小5) 男53.38 女55.60	(小5) 男53.44 女55.66
実績値		(中2) 男41.71 女49.37 点	(小5) 男53.08 女55.41 (中2) 男41.40 女49.49 点	(小5) 男53.31 女55.91 (中2) 男41.58 女50.01 点	(小5) 男53.48 女56.04 (中2) 男41.63 女50.47 点	(小5) 男52.44 女55.49 (中2) 男41.32 女50.57 点
						—

(注)達成見込の判断



概ね順調



やや遅れている



遅れている

○成果指標の分析

- 令和元（2019）年度の国語調査の結果が、小・中学校ともに全国平均正答率を上回ったのは、「書くこと」の領域の平均正答率について、全国より1ポイント程度高かったことが要因と考えられます。一方、小学校算数調査の結果が、全国平均正答率を1ポイント以上下回ったのは、「数と計算」、「数量関係」の領域の平均正答率について、全国より2ポイント程度低かったことが要因と考えられます。
- 令和元（2019）年度は、「走・跳・投」といった基礎的運動能力や柔軟性などの種目が前年度より低下したことで、小5男子・女子、中2男子が目安値を下回りました。

3 県民満足度調査の結果

	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)
満足・やや満足の割合	28.3%	31.6%	36.6%	31.0%	34.2%
やや不満・不満の割合	7.9%	8.9%	8.5%	10.3%	7.7%

4 主な取組成果

① 確かな学力の育成と教育環境の整備

- ▷一人ひとりの学力向上を図るとともに、きめ細かな指導ができる教育環境の整備
 - とちぎっ子学力アッププロジェクトの推進
 - ・とちぎっ子学習状況調査の実施
 - ・学力向上指導員派遣事業の実施
 - 小学校における少人数学級の更なる推進
 - ・小学校第5学年における35人以下学級の実施、小学校第6学年における35人以下学級の導入の決定

② 豊かな心と健やかな体の育成

- ▷豊かな人間関係の構築と健康な生活を送るための健全な心身の育成
 - 道徳教育の充実
 - ・道徳教育応援チームの派遣による学校支援
 - ・道徳教育研究指定校の設置
 - ・リーフレット「とちぎの道徳」の作成・配布及び活用促進
 - ・「栃木県道徳教育ハンドブック」の作成・配布及び活用促進
 - ・道徳教育推進教師等研修会の開催
 - いじめをはじめとする問題行動や不登校等の防止や支援体制の充実
 - ・栃木県いじめ問題対策連絡協議会の開催
 - ・教員の指導力向上を目的とした各種研修会の実施
 - ・「いじめ・不登校等対策チーム」による学校支援
 - ・各教育事務所にスクールソーシャルワーカーを配置し、いじめ・不登校等対策チームの一員として、特に福祉的な支援が必要な事案へ対応
 - ・スクールカウンセラーの配置による子どもたちの問題行動や不登校等の未然防止、早期発見・早期解決への対応
 - ・各教育事務所管内へのスーパーバイザーの配置
 - 子どもの基礎的運動能力と体力の向上
 - ・子どもの体力向上指導者研修会の実施
 - ・幼少期からの子どもの体力向上に向けた取組の充実
 - ・公立小・中学校、義務教育学校及び県立高等学校における新体力テストの悉皆実施
 - ・体力向上サポーターとして大学生を小学校に派遣
 - 子どもの頃からの勤労観・職業観の育成
 - ・中学校進路指導主事研究協議会における組織的・系統的なキャリア教育の推進に向けた教員研修の実施
 - ・職場体験活動などの体験活動を充実させるための支援
 - ・とちぎ子どもの未来創造大学推進事業において、「本物」体験講座やとちぎ未来大使「夢」講座等、子どもたちの将来の夢の実現への一助となる学習機会の提供
 - 新たな青少年教育施設の整備推進
 - ・整備運営手法（PFI導入）の正式決定及び入札説明書等の公表
 - 食に関する指導の充実
 - ・食物アレルギーを有する児童生徒への個別的な相談指導や食に関する指導における教材教具の準備等を行う栄養教諭の配置促進

③ 障害のある児童生徒一人ひとりに応じた教育の充実

▷ インクルーシブ教育システムの推進に向けた、特別支援教育の充実

- 就学前から高等学校卒業後までの一貫した支援体制の構築
 - ・ インクルーシブ教育システム推進に向けた校内支援体制充実のための管理職研修の実施
 - ・ 高等学校から進路先への支援情報の引継ぎに関する研修の実施
 - ・ 高等学校から進路先への支援情報の引継ぎに関する啓発リーフレットの作成及び配布
- 特別支援学校における職業教育・就労支援の充実
 - ・ 企業等の専門家による職業教育の授業検討会等の実施
 - ・ 就労支援コーディネーターによる新規の実習・就職先企業の開拓

④ 高校教育の充実

▷ 魅力と活力ある高校教育の充実

- 社会の変化に対応した特色ある高校づくりの推進
 - ・ 生徒の思考力、判断力、社会参画力等の実践力を育成するための「高校生学力向上総合支援事業」の実施
- 第二期県立高校再編計画の推進
 - ・ 特例校及び特例対象校への学校運営協議会の設置及び開催（日光明峰高校、馬頭高校、益子芳星高校、茂木高校、黒羽高校、那須高校）、新校設立準備委員会の設置及び開催（宇都宮中央女子高校、足利・足利女子高校）、職業系専門学科の学科改編（栃木農業高校、栃木工業高校）、夕夜間定時制への改編（足利工業高校、真岡高校）
- キャリア教育・職業教育の推進・充実
 - ・ 勤労観・職業観及び社会的自立に必要な能力や態度を育成する「キャリア形成支援事業」、「インターンシップ推進事業」等の実施
- 高校生が自分の生き方を主体的に学び考える「じぶん未来学」の推進
 - ・ 親や家族などの意義や役割、地域社会を主体的に学び考えるプログラムを全県立学校で実施

⑤ グローバル人材の育成

▷ グローバル人材の育成

- 英語教育の充実及び教員の指導力の強化
 - ・ 英語教育の推進のための小・中・高等学校の連携強化
 - ・ 英語担当教員の英語力の強化と授業力の向上に重点を置いた研修の充実
 - ・ 英語ディベート等の学習活動を推進する研修の実施
 - ・ A L Tとのチームティーチングによる高度な言語活動の充実
- 高校生の長期・短期留学支援
 - ・ 語学力、コミュニケーション能力やチャレンジ精神を養うことを目的とする「高校生短期留学プログラム支援事業」、「県立学校短期留学支援事業」の実施
- 大学コンソーシアムとちぎが産学官連携により取り組む海外留学等への支援
 - ・ とちぎグローバル人材育成事業の実施

5 総合評価

① 確かな学力の育成と教育環境の整備

▷ 一人ひとりの学力向上を図るとともに、きめ細かな指導ができる教育環境の整備

- ・ 学力向上指導員派遣事業や学力向上推進リーダー配置事業等を通して、市町教育委員会や学校における学力向上に向けた取組を支援してきましたが、学力調査の結果では全国平均

を下回る教科があり、市町教育委員会と一層連携を密にし、全県的に取り組んでいくことが求められています。

- ・35人以下学級について、令和2（2020）年度で義務教育全学年への導入が完了しました。アンケート調査結果からは35人以下学級の推進は、児童一人ひとりに対してきめ細かな学習指導、児童指導を行うことに有効であり、非常勤講師との連携により更に効果が上がることが確認できました。
- ・県内の小・中・高等学校へのタブレット端末や高速大容量ネットワークの整備を進めていますが、学習支援コンテンツの充実や教員の指導力向上など、ハード・ソフト・人材を一体としたICT環境づくりを早急に進めることが求められています。
- ・教員が本来的な業務に取り組み、教育の質の更なる向上を図るため、「学校における働き方改革推進プラン」を策定し、プランに基づく業務改善のための取組を進めていますが、各学校においては、依然として配布物の作成や印刷、教室環境の整備や部活動指導等、授業以外の業務負担が大きくなっています。

② 豊かな心と健やかな体の育成

▷ 豊かな人間関係の構築と健康な生活を送るための健全な心身の育成

- ・道徳教育研究指定校事業や道徳教育応援チーム派遣事業により、小・中学校における道徳の教科化と道徳教育の充実が図られました。また、啓発資料を発信・活用することで、教育事務所、市町教育委員会、学校との共通理解が図られています。
- ・いじめをはじめとする問題行動や不登校等の要因は多様化・複雑化しており、スクールソーシャルワーカー1人当たりの対応件数は、平成28（2016）年度と比べ約17%増えていることから、更なる支援の充実が求められています。また、発達障害や虐待を受けている児童生徒が増加傾向にある中、令和2（2020）年度にスクールカウンセラーの小・中学校への全校配置が完了したところですが、1校当たりの勤務時間数が少ないなど、児童生徒や保護者、教職員への相談時間が十分に確保できていません。
- ・子どもの基礎的運動能力と体力の向上については、県版体力調査の悉皆実施、指導者研修会や体育授業の支援等の充実により、徐々に成果が現れてきましたが、令和元（2019）年度は小・中の男子の基礎的運動能力等が前年度を下回る等目標値に届いていないことから、各校の体力向上の意識を更に高めるため、なお一層の指導支援体制の充実が求められています。
- ・とちぎ子どもの未来創造大学推進事業は、大学、民間企業等と連携し、「本物」に触れる機会を提供しており、年々実施機関及び講座数が増えています。また、中学生を対象に、とちぎ未来大使「夢」講座を実施し、生徒が将来について考える機会の提供を行っています。
- ・食物アレルギーを有する児童生徒が増加する中、地域によっては、複数の学校の個別的な相談指導や日常的な食物アレルギー対応を1人の栄養教諭等が行っていることから、一層の対応の充実が求められています。

③ 障害のある児童生徒一人ひとりに応じた教育の充実

▷ インクルーシブ教育システムの推進に向けた、特別支援教育の充実

- ・小学校では、個別の教育支援計画を作成している児童の95%程度が中学校に引き継がれていますが、中学校から高等学校への引継ぎについては、計画を作成している生徒の45%程度にとどまっており、生徒や保護者への理解啓発を含め引継ぎ実施に向けた取組の充実が求められています。
- ・高等学校では、進路先への引継ぎの仕組みを整え、校内研修等により理解啓発を図った結果、引継ぎ生徒数が増加しています。しかし、他にも引継ぎが必要な生徒がいることが推察されることから、個別の教育支援計画を活用した支援及び引継ぎの啓発について一層の充実が求められています。
- ・特別支援学校では、企業等の専門家を毎年活用し、各校の指導の充実を図るとともに、企業等に実習承諾を得るなど、生徒一人ひとりのニーズに応じた実習・就職先の確保に取り組んだ結果、宇都宮青葉高等学園が初となる卒業生を送り出した平成30（2018）年度は、特別支援学校（知的障害）卒業生全体の就職率が42.8%（宇都宮青葉高等学園：91.0%）で過去最高値となるなど取組の成果が現れています。

④ 高校教育の充実

▷ 魅力と活力ある高校教育の充実

- ・ 勤労観・職業観等を育成する教育やインターンシップ、技術の高度化に対応した実践的・体験的な学習機会の充実など、各学校の課題に応じた取組を実施することにより、社会の変化に対応した特色ある高校づくりが進んでいます。今後は、各学校の成果を全国に発信する場の提供や、生徒の進路実現に向けた進学校の学力向上などを含めた更なる特色化への取組が求められています。
- ・ 特例校及び特例対象校では、学校運営協議会での議論を踏まえ、魅力ある学校づくりに取り組んだ結果、地元市町からの支援の動きや入学者数の増加も見られ、一定の成果を上げています。また、宇都宮中央女子高校の共学化や、足利高校と足利女子高校の統合に向けた検討、職業系専門学科や定時制の改編なども予定どおりに実施しており、第二期県立高等学校再編計画は順調に進んでいます。

⑤ グローバル人材の育成

▷ グローバル人材の育成

- ・ とちぎ英語教育推進中核教員研修等を通じて、小・中・高等学校の教員が共に学ぶことにより、教師の英語力・指導力が向上しました。今後、英語教育のより一層の充実に向け、小・中・高等学校の各段階の児童・生徒の学びを切れ目なくつなぐため、各学校の連携を更に強化することが求められています。
- ・ A L Tとチームティーチングを行う授業数が増えたことなどにより、英語ディベート等の高度な言語活動を行う学校は着実に増えていますが、「話す」「書く」といった発信力を適切に測るための評価が十分に実施されておらず評価方法の工夫改善とパフォーマンステストの更なる充実が求められています。
- ・ 高校生の長期・短期留学支援については、新型コロナウイルスの影響により短期留学の実施団体数及び参加人数は減少しましたが、申請団体数は増加しており、留学に対する関心は高い状況です。
- ・ 県内の大学等で学ぶ学生の海外留学等への支援については、事業開始（平成27（2015）年度）以降200名が留学し、グローバルな視点で考え、行動する力を養う一助となっています。